

宇佐副代表共著 **バイオマス活用ハンドブック** 出版される

原発事故以来、再生可能エネルギーをふくめたバイオマス活用の期待がたかまり、平成24年には国によりバイオマス事業化戦略が策定された。

バイオマス事業化の取組みは各地域ですすめられているが、バイオマスは種類が多く、地域によって賦存する量もまちまちで、かつその活用方法は多種多様である。

そこで、このほど日本有機資源協会では、これらをまとめて、バイオマス事業関係者向けのハンドブックを出版した。(以上、発刊案内より抜粋)

この本の編集に宇佐副代表が参加し、第5章を執筆した。

CSNは、事業の三本柱のひとつにバイオマス事業を掲げ、「バイオマスタウン構築」の実現のため

に、多様な技術と豊富な経験を中立・公正な立場で活かして取り組んでいる。

CSNは、現在バイオマスタウンアドバイザー4名(宇佐洋二、亀山啓、星野雅彦、出崎太郎)を擁している。とくに、宇佐副代表は日本有機資源協会の運営にも携わり、そこでの活躍がハンドブックの共著という形で結実したものである。



購入申し込みは、宇佐副代表まで。1割引きになる。

内 容

第1編 バイオマス概論

バイオマス利用推進の基本、国のバイオマス施策の展開
バイオマス施策の新たな展開、バイオマス利用システムの基本

第2編 バイオマスの算出

- 第1章 バイオマス賦存量の把握
- 第2章 バイオマス利用可能量の把握
- 第3章 バイオマスの性状の把握
- 第4章 バイオマスの賦存量・利用可能量の把握における留意点
- 第5章 バイオマス別の賦存量・利用可能量の把握例

(例) 家畜排せつ物、きのこ栽培残さ、食品廃棄物、廃棄紙、製紙工場廃棄物、木質廃棄物など、排水処理汚泥、農業系未利用バイオマス、農作物ほ場残さ、農作物出荷規格外品、切捨て間伐材、林地残材、その他未利用バイオマス(ヨシなど)、主な資源作物、その他の資源作物(微細藻類など)

第3編 バイオマスの活用

堆肥(コンポスト)化、飼料化、炭化、マテリアル製品(バイオマスプラスチック等)、木質固形燃料、木質ガス、メタンガス化、液体燃料1(バイオエタノール)、液体燃料2(バイオディーゼル燃料)

第4編 バイオマス活用の運用に際して

【体裁】A5判、本文288ページ

【定価】2,500円(税別・送料別)

※(一社)日本有機資源協会の会員の方は定価より1割引きとさせていただきます。